

消防団の定員 実態に合わせて改定へ $\begin{matrix} 3840人 \\ \rightarrow \\ 3710人 \end{matrix}$

9月定例議会には、合計25本の議題が提案されています。そのほかにも、市民から3つの請願が出されており、2日から審議が始まっています。

さて、市長提案の一つに、「消防団の定員見直し」があります。上越市消防団の現在の定員は3,840人ですが、現在の団員数は3,698人で、かなりの定員割れとなっています。条例による定員は、これまでも何度か変更されてきましたが、今回も実態に合わせて3,710人と

する改定案が提案されています。

消防団員数は、人口減少を反映して年々減少の一途。出動面積は変わりませんので、仕事のきつさは年々増し、なり手不足に拍車をかけているのではないのでしょうか。

消防団は、市民の命と財産の守り手として、重要な役割を果たしており、災害などの際には最も頼りになる組織の一つであるだけに、全体の活動に支障がないよう、必要な人数が確保されることを祈るばかりです。

特別警報を全県に拡大 **新型コロナ感染拡大**

新潟県は8月30日、新型コロナウイルスの対策本部会議を開き、独自の特別警報を県内全市町村に発令しました。この発令により、酒類を提供する飲食店などに対して、3〜16日の間、午後8時までの営業時間短縮を要請します。

感染の拡大は、医療機関からもひっ迫直前という懸念の声が出されるなど、大変な状況になっていますので、感染押さえ込みの新たな対策が必要です。

「時短要請」に伴って、支給要件を満たした場合には協力金が支給されます。

このニュース作成の時点では詳細は不明ですが、先日の新潟市の例ですと、前年度または前々年度の確定申告に基づく1日当たりの売上高により、1日2.5〜7.5万円が支給されることになる模様です。

十分な補償があつてこそその営業時間の短縮です。しっかりと効果が発揮できるように、簡便な手続きと十分な補償が必要です。

コロナで困っているすべての市民を助けたい

さわやか笑顔で 縦横無尽に奔走

10月の市議会議員補欠選挙への出馬を明らかにした**いわさわ健**さんは、元気に市内各地をまわり、自らのお店のお客さんや同業者、若い人たちなどに支持を訴えています。

「コロナ対策としての支援は、経営者だけでなく働いている従業員や関連業者など全員を対象にすべき。困っている人全員を助けたい」と熱く語っています。



いわさわ たけし **健**さん

上越保健所管内感染症発生状況 (8月27日現在)

PCR検査実施件数	15,780件 (前週+722)
管内陽性件数	260件 (前週+53)
上越市内陽性件数	222件 (前週+52)
陽性率	1.648% (前回1.375%)

日本共産党上越市議員団ニュース
No.721 2021年9月5日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

県が進める「地域医療構想実現に向けた今後の方向性」 **その問題点** ③

昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大で、全国各地の医療体制はひっ迫しています。日本医師会会長が、「競争や効率重視の新自由主義の影響が医療機関にも及んでいる」「病床が9割くらい埋まらないと採算が取れない仕組みなので、非常事態が起きるとすぐにお手上げになってしまう」「感染症が流行した時に対応できる病床を維持しておくべきだ。厚労省の再編・統合の方針は見直しが必要ではないか」(2020/5/27毎日新聞東京夕刊)と述べています、そう述べざるを得ないのが医療現場の実態です。

しかし、県は、新型コロナウイルス感染症拡大を経験し、医療体制のぜい弱さが明らかになった今もなお、県行財政改革の一環として、国に追随し、医療費抑制政策を推進しています。

また、国は「公立・公的病院」の再編・統合や民営化、「地域医療構想」による病床削減

の方針について見直しすらしていません。それどころか、2021年5月には、病床削減推進法(医療法等改定案)で、さらなる医療削減へ突き進んでいます。

その主な内容は……

- * コロナ禍で明らかになった病床、医療従事者、医療機器不足を省みることなく、ひたすら病院統廃合と病床削減へ。しかも、消費税が財源の病床削減補助金を法定化。本末転倒な政策。
- * 医師の長時間労働を規制するとしながら、抜本的に医師を増やす計画なし。年1860時間(過労死ラインの2倍)の時間外労働を容認する医師の需給計画を前提にしている。
- * 2023年度から医学部入学定員を減らす政府方針。医師以外の職種への「タスクシフト」(業務移管)を行う計画。医療の質・安全性が脅かされかねない。(続く)